

# 共創

令和7年度 流山市立おおぐろの森中学校

第3学年 学年だより 第4号

令和7年 7月 4日発行

## 自分を創り、仲間と歩き、心を育んだ旅

この度、修学旅行にあたりましては、準備段階からご理解と温かいご支援をいただき、ありがとうございました。3日間という短い時間ではありましたが、修学旅行は単なる「行事」ではなく、心に深く残る大切なものとなりました。

出発前、「きちんと班で動けるかな?」「道に迷わないかな…」そんな小さな不安と期待が入り混じった様子を見せていました。しかし修学旅行を終えた今、その表情には確かな自信と、仲間と過ごした時間の温かさが感じられます。

今回のスローガンは「創造・協調・感謝～思い出と学びを刻み、仲間とともにStep up～」。このスローガンが、様々な場面で子どもたちの行動に自然と表れていました。

初日の大阪万博では、目にするものすべてが新鮮で、まるで世界と自分がつながったような感覚を味わっていたようです。人の多さや会場の広さに戸惑いながらも、地図を広げ、声を掛け合い、班の仲間と力を合わせて行動する姿に、普段の学校生活では見られないたくましさを感じました。



2日目の京都班別行動では、子どもたちは浴衣を身にまとい、京都の街をタクシーで巡りました。着付けを終えた直後、鏡を見つめる真剣な表情と、ほんの少し照れくさそうな笑顔。その瞬間、少し大人びた空気が漂っていたのを覚えています。観光地の景色を楽しむだけでなく、自分たちがそこでどう立ち振る舞うかを考える姿は、まさに“心の成長”を感じられました。予定通りにいかない場面もありましたが、互いにフォローし合いながら、穏やかに話し合って対応している姿に、協調や思いやりの力が確かに育っていると感じました。



そして最終日。各クラスで計画した「学級別行動」は、旅の締めくくりとして子どもたちの団結力や自律性が試される場面もありました。楽しむ中にも節度を保つ姿からは、3日間の経験がしっかりと生かされていることが伝わってきました。疲れを見せながらも、仲間の笑顔に励まされ、感動を分かち合い、時には静かに景色に見入る姿…。こうした一つ一つの光景が、深く心に刻まれました。



修学旅行中、思い通りにいかないこともあります。でも、それをどう受け止めるか、どう乗り越えるか。そこにこそ、旅の本当の学びがあったように思います。一人では難しいことも、仲間がいたからこそ前に進めた。この3日間で築かれた信頼と支え合いは、これからの中学校生活にも必ず生きてくることでしょう。

保護者の皆様が見守り、支えてくださったからこそ、子どもたちは安心して修学旅行へ行くことができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。これから体育祭や合唱コンクール、進路に向けた取り組みなど、また新たな挑戦が始まります。修学旅行で得た経験を糧に、子どもたちがこれからもたくましく歩んでいけるよう、学校とご家庭で力を合わせて支えていければと思っております。

## 【修学旅行実行委員のコメント紹介】

今回の修学旅行では、実行委員が中心となって、事前の準備や当日の運営、夜の学級会・リーダー会の進行など、様々な場面で積極的に活動しました。特に夜の学級会やリーダー会では、単に反省点や課題を挙げるのではなく、それぞれのクラスや班の「良かった点」や「成長を感じられた点」を丁寧に言葉にして発表していた姿がとても印象的でした。実行委員は、自分たちの役割をしっかりと理解し、周囲をよく見ながらクラスや学年全体がよりよい雰囲気で過ごせるようにと声をかけ続けていました。そんな姿に引っ張られるように、周りも自然と前向きな姿勢を見せ、お互いの努力や思いやりを認め合う空気が育っていました。失敗や戸惑いももちろんありましたが、だからこそ、仲間の存在の大きさや、自分たちの成長に気づくことができたのだと思います。「反省=悪い点を挙げる」とではなく、「良かった点を見つめ直し、それを次に生かすこと」という、前向きな振り返りの姿勢が子どもたちの中に育ててきていることは、大変頼もしく感じました。実行委員をはじめ、子どもたちがそれぞれの立場で一生懸命取り組んだからこそ得られた、大きな学びのある修学旅行であったと思います。

1組 中野さん	今回の修学旅行で、集団に対する指示の出し方を学ぶことができました。多くの人がざわざわした中での連絡は伝わりにくいことが多かったので、全体を注目させる一言を添えることが重要だと改めて学びました。今回学んだことを生かし、集団を引っ張っていけたらいいなと思います。
2組 岩崎さん	今回の修学旅行で成長したと思うことは「先を見て行動する力」です。修学旅行では移動中にしおりで次の全体の動きを確認し、時間を逆算したり移動隊形を把握したりしてみんながスムーズに動けるように頑張りました。この「先を見る力」というのは学校生活でも生かせる部分だと思います。授業前にみんなが時間を逆算して準備できているのかなど呼びかけをしていきたいと思います。
2組 後田さん	修学旅行を通して、集団をまとめる力が身についたと感じました。初日の万博では、指示が少し遅れてしまい、全体の行動に時間がかかってしまいました。その経験から、ひとつの指示の遅れが、その後の行動に大きな影響を与えることを知りました。2日目以降は、先を見通して行動できるようになり、積極的に声掛けを行なうことができました。「今ここで言えてよかった」と自分自身で振り返る場面もあり、自信につながりました。この経験を通じて学校生活にも生かすことができるようにならねえです。
2組 縢さん	周囲への気配りがよりできるようになったと思います。困っている人や体調が悪い人はいないかなど、周囲への気配りを忘れずに行動できたので、今後学級内でも周囲への気配りを忘れずにし、困っている人がいたら率先して行動できるようにしたいです。また、タイムスケジュール通りに進められるように時間や流れをしっかりと把握して、今の時間や集合時間、次の予定の呼びかけをすることができました。今後の学校生活でも自分が時間を意識して余裕を持って行動することはもちろん、必要に応じて学級に呼びかけができるようにしたいです。無事に修学旅行を成功させることができ、修学旅行の実行委員を経験して、達成感を得ることができました。今後も学級委員としての責任感を持ち、学級のことを考えて率先して行動していきたいです。
3組 荒井さん	修学旅行がみんなの思い描くものになるように円滑に物事を進めるこを意識しました。班行動の時間を多くするためスケジュールを守れるよう声掛けや先導をしました。しかし、実行委員としての動きは当日も上手くいかないこともありました。ですが、みんなにたくさん助けてもらって役割をこなすことができました。だから、自分が成長したと思うことは「仲間を頼ること」です。実行委員だから自分でどうにかするのではなく、仲間とともに作り上げることの大切さを感じました。これからも学級委員として、時には仲間の力を借りながらクラスのリーダーを担っていきたいです。
3組 草薙さん	実行委員を経験し、クラス全体をまとめる力が成長したと思います。最初は、どうしたらいいのだろうと、考えることが多かったです。やっていくうちに、次はどうするのかを、正確に自分の言葉で伝えることができるようになりました。やることが多くて本当に大変でしたが、修学旅行を通して学年だけでなく、自分自身も成長することができたので、頑張ってよかったです。
4組 野口さん	修学旅行を通して、自分自身も課題点を改善に繋げる力や学級会などで人前で話す力が成長したと感じました。この経験は、きっとこれからの中学校生活にも好循環をもたらしてくれると思います。そして、学年スローガンの通り、「創造・協調・感謝」の心を持って、さらに成長していきたいです。また、実行委員で経験したことを生かしてクラスに良い影響を与えられるようになりたいです。
4組 菅原さん	この修学旅行を通して、リーダーとして臨機応変に対応する力が付いたと思います。なぜなら、新幹線をはじめとして公共の場での活動が多くなったため、計画通りに進めることができることが難しかったからです。そのときに先生や、添乗員の方の助言で臨機応変に学年や、クラスに指示を出し、動かすことができました。このように臨機応変に対応し、集団を動かすことは日常の学校生活でも役立つ部分があると思います。なので、この修学旅行で身に付けた力を活かしてクラスを良い方向へ導く学級委員になりたいです。
5組 福永さん	修学旅行を通して時間の意識と全体への声掛けが成長したと思います。初日の大阪万博では自分が時間を意識していなかったこともあります。バスを降りるのが遅れてしまったことで万博を見学する時間が少なくなってしまい、もっと自分がしっかりしないといけないと思いました。2日目の朝の着付け体験は5組が一番早い時間で遅れたら他のクラスにも影響が出るため、できるかぎりの声掛けを行い、時間内に全員が着付けをすることができました。他にも2日の夜に全員が荷物の準備を終わることができますように声掛けを行い全員が朝慌てる事なくホテルを出ることができます。このような経験を生かして学級委員として普段の学校生活でも、仲間へ声をかけられるようにしていきたいです。
5組 坂本さん	初めて学級委員になって、それに加えて修学旅行実行委員という大きな役目だったのでとても緊張していました。しかし、クラスのみんなや他の実行委員の仲間、先生方がサポートしてくれたおかげで、しっかり準備をすることができます。3年生のみんなが楽しかったといえる修学旅行になっていたならとても嬉しいです。この経験を踏まえて、少しでも自分に自信を持てたらいいなと思います。
6組 武藤さん	今まで人前に立つことを恥ずかしがり、経験してこなかったので、初めてたくさんの人をまとめたり人前で話したりして、とても良い経験になりました。これからは今回の経験を活かし、体育祭などの学校行事でも最高学年としてみんなをまとめたいです。
6組 酒巻さん	修学旅行の最初の方では、どう指示を出したらいいか、戸惑ってしまった、みんなに的確に、簡潔でわかりやすく内容を伝えたりするのが上手にできませんでした。しかし、今回の3日間は、素早く指示を出すことが求められる場面があつたため、『誰に、何を、どのように』伝えたいのか、を意識することで、その時の周りの状況に合わせて説明の仕方を変えたり、使う言葉を考えたりし、臨機応変な対応に慣れることができたと思います。また、自分一人で何か行動を起こそうとするのではなく、仲間をしっかりと頼ることも重要だということに気が付けました。何か伝えなければならないことがあったとき、自分一人が多くの人に言うのではなく、他の学級委員や、班長などに、自分の意見を共有し、指示をするのにも段階を踏むことで、より多くの人に、自分の言いたいことが伝わることを実感しました。今後は、『誰に、何を、どのように』伝えたいかを考えて指示を出すことを意識し、自分一人だけでなんとかしようとせず、多くの人と連携して役割をこなしていくらしいと思いました。